TADOKU JUNIOR むかしばなし ★★★☆☆ ふつう 440語

The Three Billy-Goats Gruff

3びきのやぎのがらがらどん

Asbjørnsen & Moe (tr. G. W. Dasent)（1914年の本） 原文そのまま 朗読：Nadine Eckert-Boulet

人の声の朗読
を聞く・Web版

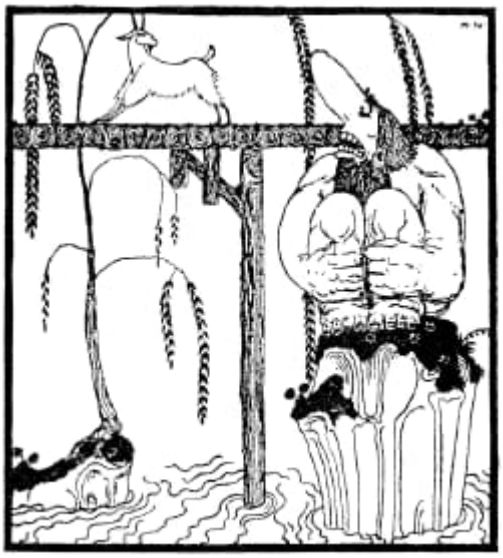
どんなおはなし？ 山の草場へ行きたい3びきのやぎ。でも、とちゅうの橋の下には、こわいトロルが待っています。小さいやぎ、2番目のやぎ、そして大きいやぎがわたると……。

Once on a time there were three Billy-goats, who were to go up to the hill-side to make themselves fat, and the name of all three was “Gruff.”

On the way up was a bridge over a burn they had to cross; and under the bridge lived a great ugly Troll, with eyes as big as saucers, and a nose as long as a poker.

So first of all came the youngest billy-goat Gruff to cross the bridge.

“Trip, trap! trip, trap!” went the bridge.



“Who’s that tripping over my bridge?” roared the Troll.

“Oh! it is only I, the tiniest billy-goat Gruff; and I’m going up to the hill-side to make myself fat,” said the billy-goat, with such a small voice.

“Now, I’m coming to gobble you up,” said the Troll.

“Oh, no! pray don’t take me. I’m too little, that I am,” said the billy-goat; “wait a bit till the second billy-goat Gruff comes, he’s much bigger.”

“Well! be off with you,” said the Troll.

A little while after came the second billy-goat Gruff to cross the bridge.

“Trip, trap! trip, trap! trip, trap!” went the bridge.

“WHO’S THAT tripping over my bridge?” roared the Troll.

“Oh! It’s the second billy-goat Gruff, and I’m going up to the hill-side to make myself fat,” said the billy-goat, who hadn’t such a small voice.

“Now, I’m coming to gobble you up,” said the Troll.

“Oh, no! don’t take me, wait a little till the big billy-goat Gruff comes, he’s much bigger.”

“Very well! be off with you,” said the Troll.

But just then up came the big billy-goat Gruff.

“TRIP, TRAP! TRIP, TRAP! TRIP, TRAP!” went the bridge, for the billy-goat was so heavy that the bridge creaked and groaned under him.

“WHO’S THAT tramping over my bridge?” roared the Troll.

“IT’S I! THE BIG BILLY-GOAT GRUFF,” said the billy-goat, who had an ugly hoarse voice of his own.

“Now, I’m coming to gobble you up,” roared the Troll.

“Well, come along! I’ve got two spears,
And I’ll poke your eyeballs out at your ears;
I’ve got besides two curling-stones,
And I’ll crush you to bits, body and bones.”

That was what the big billy-goat said; and so he flew at the Troll and poked his eyes out with his horns, and crushed him to bits, body and bones, and tossed him

out into the burn, and after that he went up to the hill-side. There the billy-goats got so fat they were scarce able to walk home again; and if the fat hasn't fallen off them, why they're still fat; and so:

Snip, snap, snout,
This tale's told out.

むかしむかし、3びきのおすのやぎがいました。山の草場へ行って、草を食べて太ろうとしていました。3びきの名前は、みんな「がらがらどん」でした。

とちゅうには、谷川にかかった橋があって、それをわたらなければなりませんでした。橋の下には、大きくてみにくいトロルが住んでいました。目はお皿のように大きく、鼻は火かきぼうのように長いのです。

さいしょに、いちばん小さいやぎのがらがらどんが、橋をわたりにやってきました。

「カタン、コトン！カタン、コトン！」と橋が鳴りました。

「おれの橋をカタコトわたるのは、だれだ？」とトロルがどなりました。

「ああ、ぼくです。いちばんちびのやぎのがらがらどんです。山の草場へ、太りに行くところです」とやぎは、とても小さな声で言いました。

「よし、おまえをひとのみにしてやるぞ」とトロルは言いました。

「ああ、やめて！どうか食べないでください。ぼくは小さすぎますよ、ほんとうに」とやぎは言いました。「もう少し待てば、2番目のやぎのがらがらどんが来ます。ぼくよりずっと大きいですよ」

「ふん、それならさっさと行け」とトロルは言いました。

しばらくすると、2番目のやぎのがらがらどんが、橋をわたりにやってきました。

「カタン、コトン！カタン、コトン！カタン、コトン！」と橋が鳴りました。

「おれの橋をカタコトわたるのは、だれだっ！？」とトロルがどなりました。

「おや！2番目のやぎのがらがらどんです。山の草場へ、太りに行くところです」とやぎは言いました。こちらの声は、それほど小さくはありませんでした。

「よし、おまえをひとのみにしてやるぞ」とトロルは言いました。

「ああ、やめて！食べないでください。もう少し待てば、大きいやぎのがらがらどんが来ます。ぼくよりずっと大きいですよ」

「よかろう！さっさと行け」とトロルは言いました。

ところがちょうどそのとき、大きいやぎのがらがらどんがやってきました。

「ガタン、ゴトン！ガタン、ゴトン！ガタン、ゴトン！」と橋が鳴りました。大きいやぎはとても重かったので、橋はその下で、ギシギシ、ミシミシと音をたてました。

「おれの橋をドシドシわたるのは、だれだっ！？」とトロルがどなりました。

「おれだ！大きいやぎのがらがらどんだ！」とやぎは言いました。このやぎは、ひどくしゃがれた、おそろしい声をしていました。

「よし、おまえをひとのみにしてやるぞ」とトロルはどなりました。

「さあ、来い！おれには2本のやりがある。
これで、おまえの目玉をつついてやるぞ。
おまけに、大きな丸い石が2つある。
これで、おまえをほねまでこなごなにしてやる」

大きいやぎはそう言うと、トロルにとびかかり、角で目をつついて、ほねまでこなごなにやっつけ、谷川へほうりこみました。それから山の草場へのぼっていきました。草場で、やぎたちはとても太って、家まで歩いて帰れないほどになりました。もしそのあぶらがまだ落ちていなければ、今でも太っているでしょう。というわけで――

チョキン、パチン、ストン。
はなしは　おしまい。

たんご と クイズ 3びきのやぎのがらがらどん

Billy-goats おすのやぎ	**hill-side** 山の草場（山のしゃめん）	**bridge** 橋
Troll トロル（北欧のかいぶつ）	**saucers** 小皿	**nose** 鼻
voice 声	**horns** 角	

Q1 トロルが住んでいたのはどこ？

① 山のてっぺん　② 橋の下　③ 森のほらあな

Q2 いちばん小さいやぎは、トロルに何と言った？

① 次のやぎのほうがずっと大きいよ　② ぼくはとても強いよ　③ いっしょに草場へ行こう

Q3 大きいやぎは、何を使ってトロルをやっつけた？

① 前足　② しっぽ　③ 角

こたえ

Q1 ② 谷川にかかる橋の下に、目がお皿のように大きく、鼻が長いトロルが住んでいました。

Q2 ① 「ぼくは小さすぎます。2番目のやぎを待てば、ずっと大きいですよ」と言って、うまく橋をわたりました。

Q3 ③ 大きいやぎはトロルにとびかかり、角でやっつけて、谷川へほうりこみました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30973（Asbjørnsen & Moe (tr. G. W. Dasent)、1914年）。パブリックドメイン。

挿絵：Kay Nielsen（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）

朗読（Web版）：Nadine Eckert-Boulet（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）

和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。